

令和 8 年度第 1 回
枚方市上下水道事業経営審議会

枚方市の水道事業及び 下水道事業の概要について

枚方市上下水道局
*Hirakata Water &
Sewerage Bureau*



枚方市上下水道局イメージキャラクター
アクリン

令和 8 年（2026年） 6 月 9 日（火）

1

枚方市の水道事業について



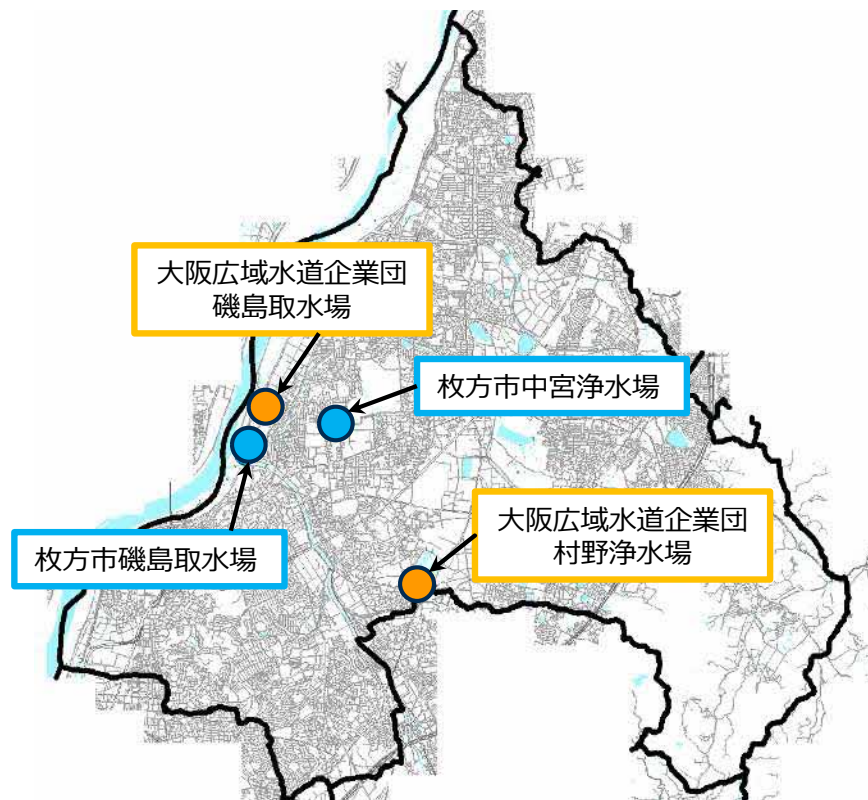
1 枚方市の水道事業

① 水道事業の概要

本市の水道は、昭和8年の給水開始当時、天野川を水源とした給水人口約12,000人（旧枚方町）の事業規模でした。

その後、行政区域の拡大や急激な人口増加による水需要の増加に対応するため拡張事業にて水道施設・管路を整備し、90年以上にわたる歴史を歩んできました。

現在では淀川を水源とする中宮浄水場で高度浄水処理を行った自己水と大阪広域水道企業団からの受水により、市域の約39万人へ年間約4,300万 m^3 の水道水を配水しており、そのうち、自己水が約88%、企業団受水が約12%となっています。



年間配水量約4,300万 m^3
(日平均約12万 m^3)

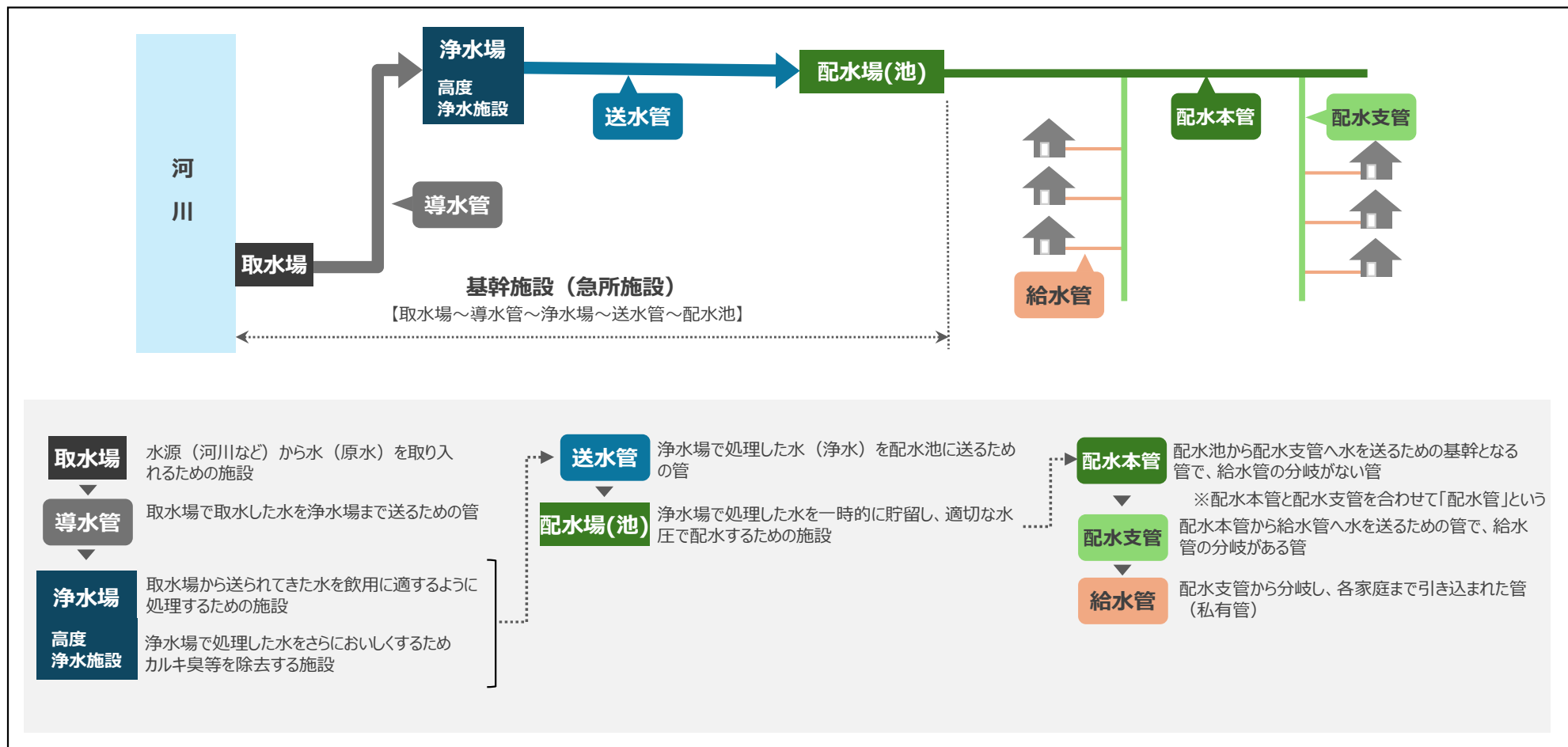
府内 中核市	自己水率 (%)	企業団水 ・その他の 受水率 (%)
豊中市	15	85
吹田市	23	77
高槻市	29	71
枚方市	88	12
寝屋川市	0	100
東大阪市	0	100
八尾市	0	100

令和6（2024）年度末現在

1 枚方市の水道事業

② 水道施設について

▼水道施設の名称と役割（イメージ）



1 枚方市の水道事業

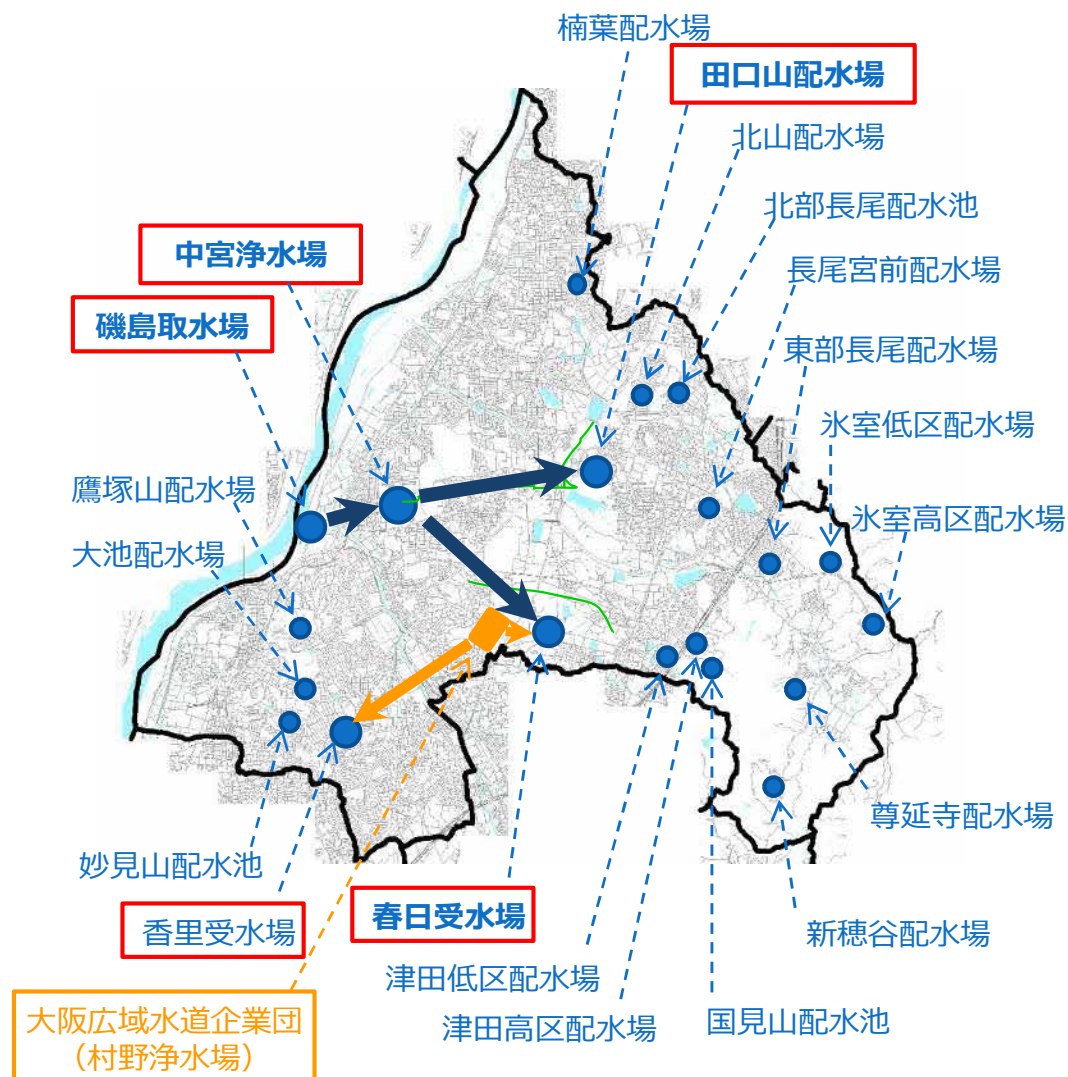
③施設（配水場等）の配置について

磯島取水場から取水し、中宮浄水場で高度浄水処理を行った自己水は、田口山配水場及び春日受水場へ送水しています。

田口山配水場は市北部地域へ供給する基幹的な配水施設となっており、北山配水場や楠葉配水場へ送水しています。

春日受水場は、市東部地域及び市南部地域の一部へ供給する基幹的な配水施設であり、市東部の配水拠点である津田低区配水場及び市南部の鷹塚山配水場や大池配水場へ送水しています。

大阪広域水道企業団（村野浄水場）で浄水処理した水は、香里受水場及び前述の春日受水場で受水しています。これら受水場より市南部地域の妙見山配水池や大池配水場などへ送水しています。



1 枚方市の水道事業

④施設（配水池・ポンプ・電気設備等）の更新・耐震化について

施設の老朽化等の状況に応じて、改修工事や耐震補強工事などを実施しています。また、改修や耐震補強が困難な施設については、新たな施設を整備する更新による耐震化工事を実施しています。

配水池の耐震化に合わせて、地震時に配水池から水の流出を防止するための緊急遮断弁を設置しています。



中宮浄水場更新事業のイメージパース
(令和9年度完成予定)



施工状況（令和8年5月15日撮影）

	施設名	開設		施設名	開設
①	磯島取水場	昭和36年 (1961)	⑫	津田低区配水場	昭和59年 (1984)
②	中宮浄水場	昭和36年 (1961)	⑬	北山配水場	平成3年 (1991)
③	大池配水場	昭和36年 (1961)	⑭	長尾宮前配水場	平成7年 (1995)
④	妙見山配水池	昭和36年 (1961)	⑮	津田高区配水場	平成8年 (1996)
⑤	田口山配水場	昭和42年 (1967)	⑯	国見山配水池	平成8年 (1996)
⑥	鷹塚山配水場	昭和44年 (1969)	⑰	香里受水場	平成10年 (1998)
⑦	東部長尾配水場	昭和44年 (1969)	⑱	新穂谷配水場	平成14年 (2002)
⑧	尊延寺配水場	昭和45年 (1970)	⑲	水室低区配水場	平成16年 (2004)
⑨	北部長尾配水池	昭和45年 (1970)	⑳	水室高区配水場	平成19年 (2007)
⑩	楠葉配水場	昭和50年 (1975)			
⑪	春日受水場	昭和54年 (1979)			

令和7（2025）年度末現在



送水ポンプ



受変電設備



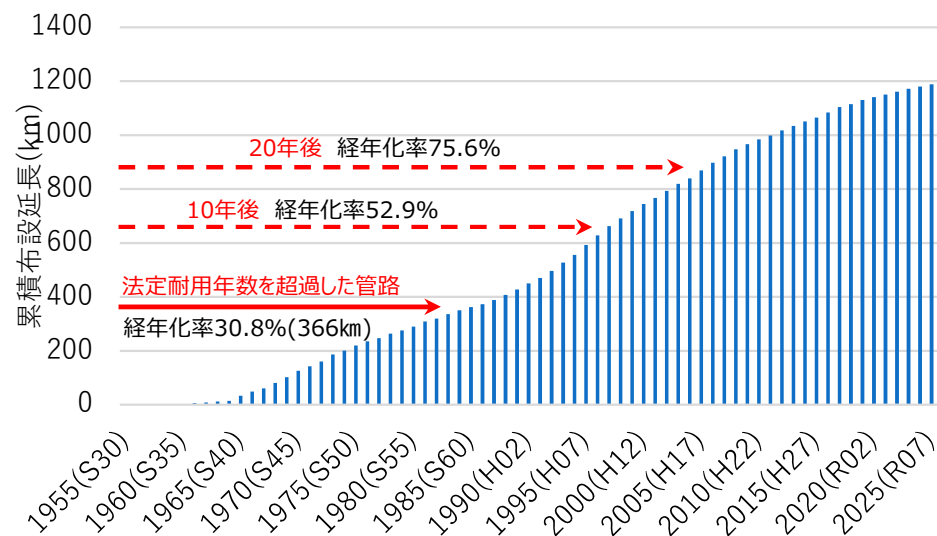
緊急遮断弁の外観
(津田低区配水場3号池)

1 枚方市の水道事業

⑤ 水道管路の老朽化について

枚方市が所有（管理）する水道管の総延長は約1,188kmであり、水道管の法定耐用年数（40年）を超えた管路延長の割合を表した経年化率は、平成30年度末の25.0%から令和7年度末で30.8%と年々増加しています。

計画的な管路の更新に取り組んでいるところですが管路の更新が老朽化に追いついていない状況です。



▼老朽化による漏水の状況



		枚方市	
経年化率 (%)	基幹管路	47.1%	導水管 4.4 km
	全管路	30.8%	送水管 46.3 km
			配水管 1137.4 km
			総延長 1188.1 km

令和7（2025）年度末現在

1 枚方市の水道事業

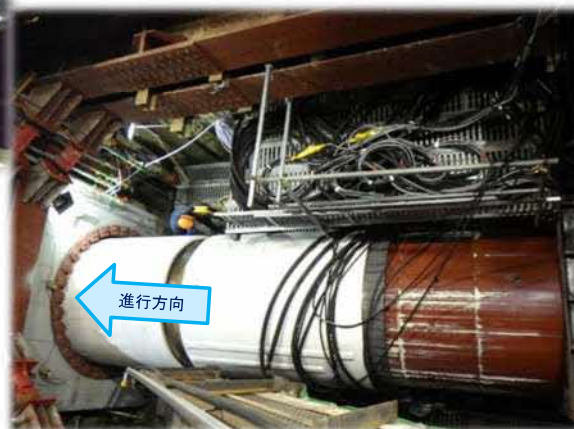
⑥ 水道管の更新・耐震化について

近年、水道管路の老朽化が課題となっており、漏水事故の増加や地震災害等を背景に、社会的影響が大きい基幹管路（送水管など）や被災時に拠点となる重要施設に接続する管路の更新・耐震化を進めつつ、それら以外の老朽管路の更新・耐震化についても計画的に取り組んでいます。

【基幹管路（送水管）の更新工事】



中宮浄水場～春日受水場間の
送水管更新工事
(地下シールドトンネル建造状況)



【配水管の更新工事】

昭和42年布設の老朽化した水道管（口径200mm）



破損状況



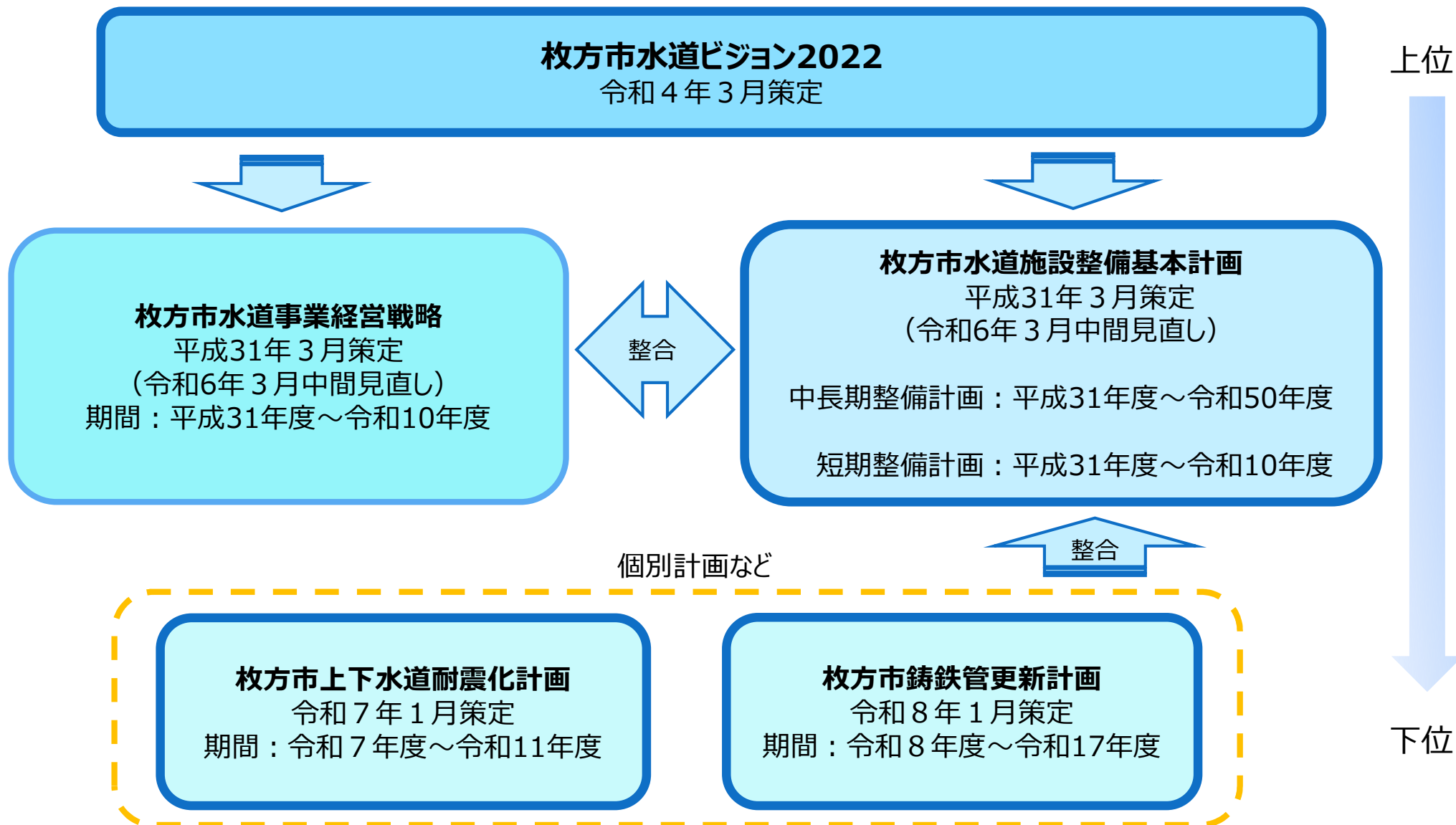
内部状態



水道管の布設状況

1 枚方市の水道事業

⑦ 水道事業における計画



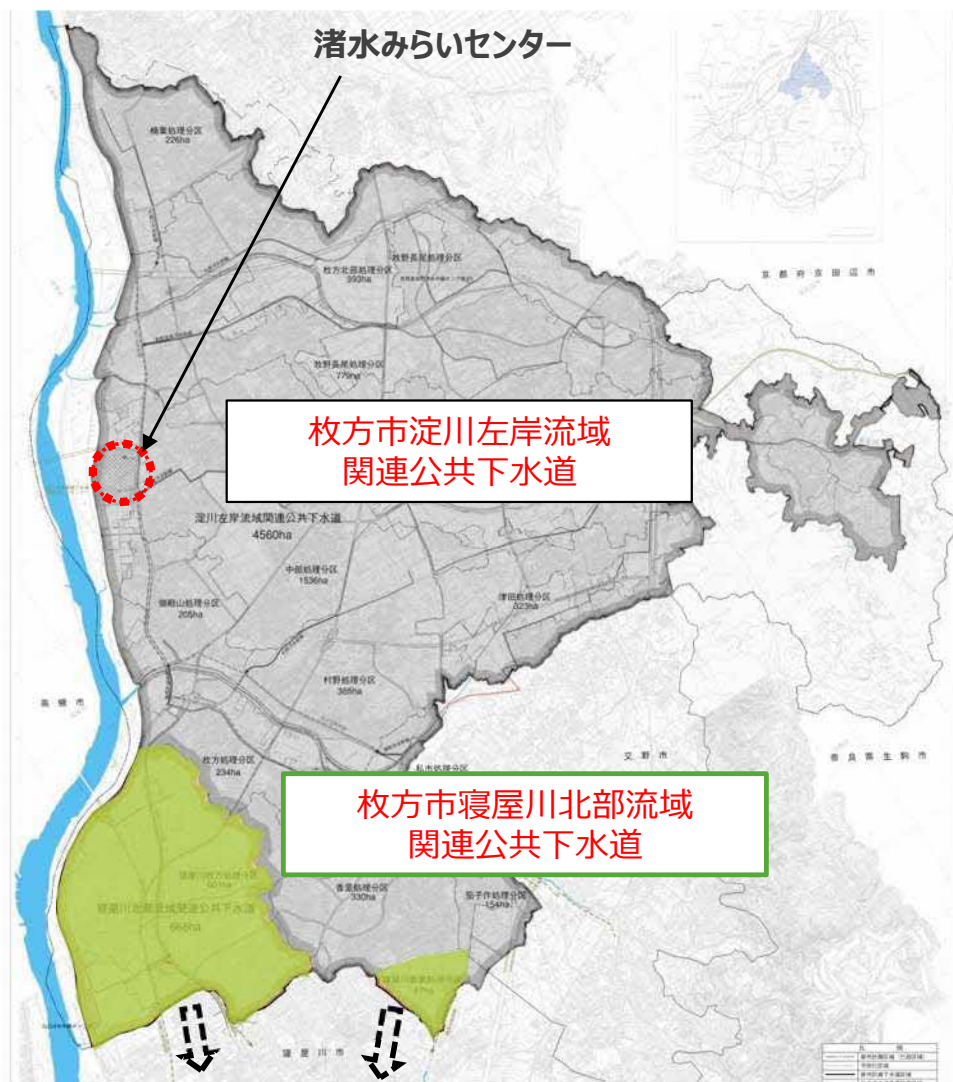
2

枚方市の下水道事業について



2 枚方市の下水道事業

① 下水道事業の概要

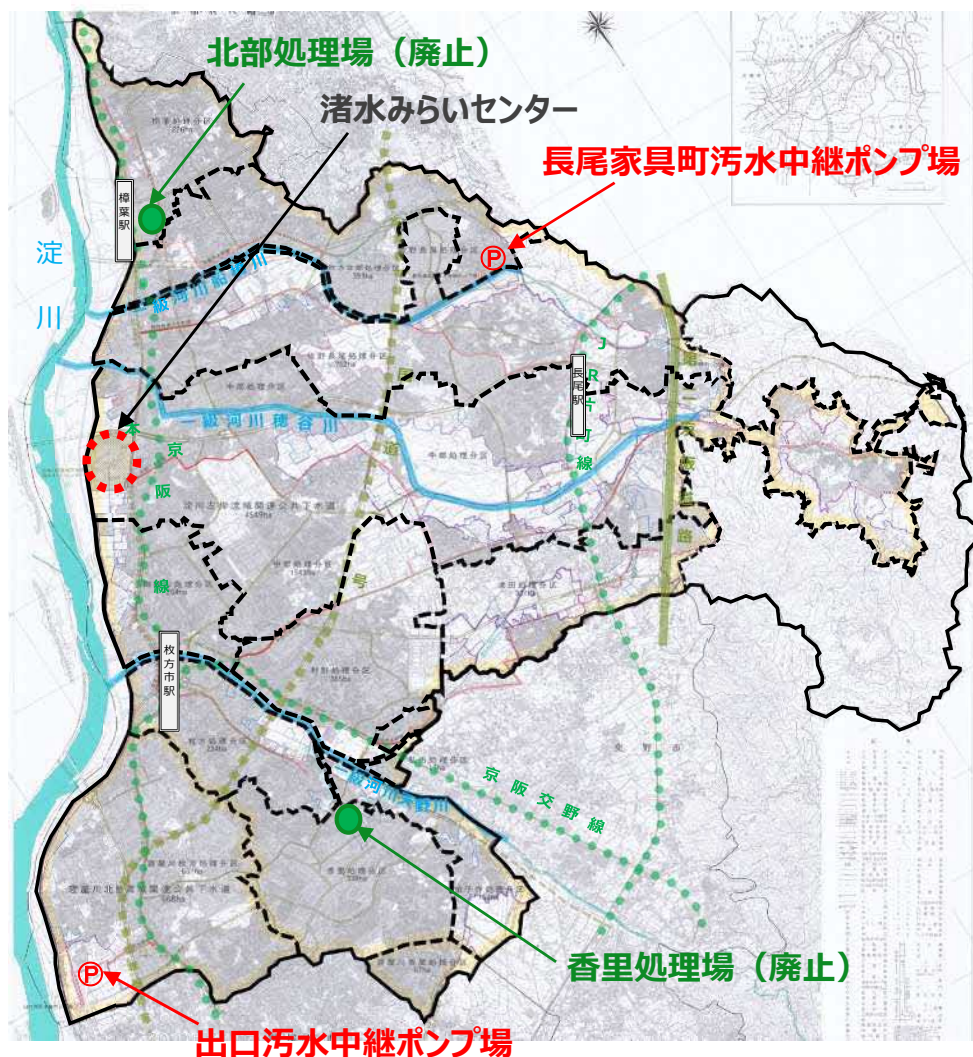


なわて水みらいセンター（四條畷市）へ

- ◆ 下水道事業の目的
 - ・生活環境の改善
 - ・公共用水域の水質の保全
 - ・浸水の防除
- ◆ 『汚水』と『雨水』の分流方式で整備しています。
市域6,512haのうち、約80%にあたる5,228haが下水道計画区域です。
- ◆ 下水道事業には、2以上の市町村からの汚水を広域的に処理する流域下水道があり、枚方市は地形等を考慮して、2つの流域下水道に接続し、効率的な汚水の処理に取り組んでいます。
 - ・枚方市淀川左岸流域関連公共下水道
(枚方市、交野市、八幡市で構成)
→渚水みらいセンターへ
 - ・枚方市寝屋川北部流域関連公共下水道
(枚方市、寝屋川市、大阪市など9市で構成)
→なわて水みらいセンターへ
- ◆ 下水道事業に係る経費負担については、「雨水公費・汚水私費」の原則に基づき、事業を実施しています。

2 枚方市の下水道事業

② 下水道事業の概要（污水）



◆枚方市の污水事業は、昭和33年に日本住宅公団香里団地の整備に伴い建設された香里処理場の運転開始が始まりです。

◆単独公共下水道

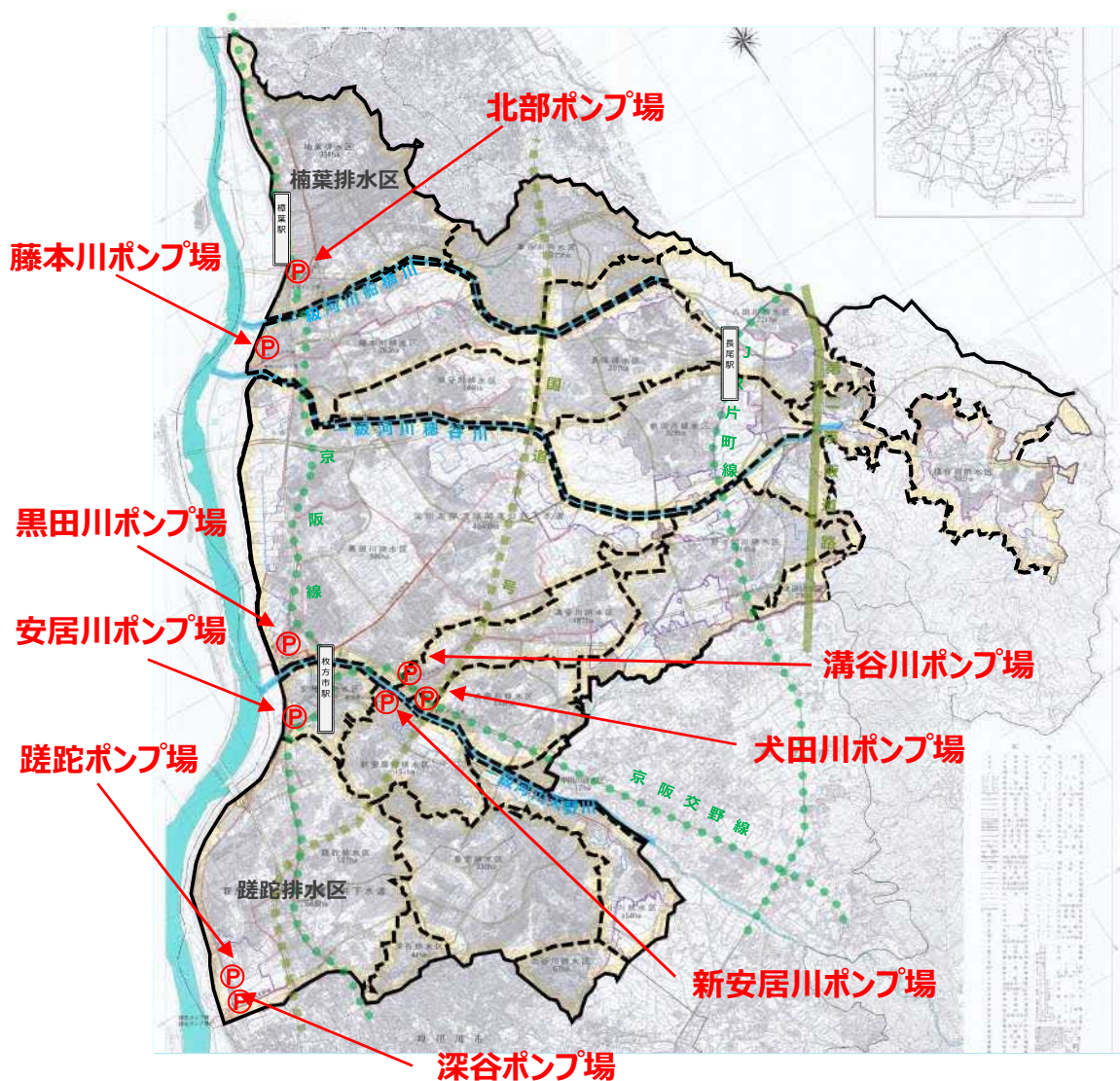
香里処理場→平成10年度末に廃止
北部処理場→平成17年度末に廃止
→大阪府の流域下水道に編入

◆平成30年度に住居系地域の污水整備が**概成**しました。

◆令和7年度末の整備人口普及率は**98.0%**です。

2 枚方市の下水道事業

③ 下水道事業の概要（雨水）



◆当初はおおむね5年に一度の大雨（45.1mm/h）に対応するための整備を実施してきました。
→平成8年度に、おおむね10年に一度の大雨（54.4mm/h）に対応するために計画を変更

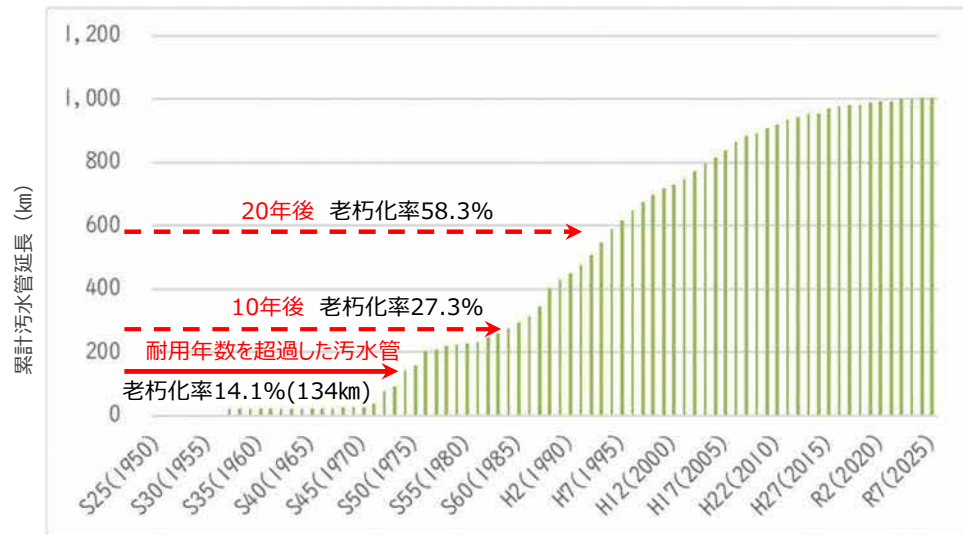
◆令和7年度末の主要な幹線管渠の整備率は46.3%です。

◆枚方市での時間最大雨量（108.5mm/h）に対する浸水被害を軽減するために蹠陀排水区と楠葉排水区で超過降雨対策を実施しました。

◆地形特性（河川に囲まれ水位が上がると自然に雨が流れなくなる地域がある）から雨水ポンプ場が9か所あります。

2 枚方市の下水道事業

④ 下水道管の老朽化について



◆ 香里処理場（昭和33年）や北部処理場（昭和44年）の運転開始に合わせて整備された汚水管の老朽化が進んでいます。

◆ 平成元年の渚処理場（現在の渚水みらいセンター）の供用開始に合わせて積極的な整備を進めたことから、20年後には約600kmの汚水管が法定耐用年数（50年）を経過します。



2 枚方市の下水道事業

⑤ 雨水ポンプ場について

	施設名	供用開始年
①	安居川ポンプ場	昭和38年 (1963)
②	新安居川ポンプ場 (既設)	昭和38年 (1963)
	新安居川ポンプ場 (増設)	令和2年 (2020)
③	北部ポンプ場	昭和46年 (1971)
④	溝谷川ポンプ場	昭和46年 (1971)
⑤	深谷ポンプ場	昭和47年 (1972)
⑥	蹉跎ポンプ場	昭和49年 (1974)
⑦	黒田川ポンプ場	昭和54年 (1979)
⑧	藤本川ポンプ場	昭和59年 (1984)
⑨	犬田川ポンプ場	昭和60年 (1985)

- ◆ 河川に排水するために市内で9か所の雨水ポンプ場が稼働中です。
- ◆ 大半のポンプ場は新耐震基準（昭和56年）の前に建設されました。
- ◆ ポンプ設備の多くが標準耐用年数（15～20年）を経過しています。
- ◆ 受変電設備などを改築するためにも、ポンプ場建屋の耐震化が急務となっています。

【主なポンプ場】



北部ポンプ場



安居川ポンプ場



溝谷川ポンプ場



藤本川ポンプ場

【老朽化した設備】



ポンプ用エンジン



受変電設備

2 枚方市の下水道事業

⑥ 老朽化対策・地震対策の取組みについて

- ◆ 膨大なストックを安全で快適に利用するために、管路の状態を把握する点検・調査を進めています。
- ◆ 管路は、破損した場合に市民生活等への影響が大きくなる大口径の污水管から老朽化対策・地震対策を進めています。
- ◆ ポンプ場については、雨水ポンプ場の耐震化を進めており、地震対策が完了したポンプ場から設備更新などの老朽化対策を進めています。

【管路の点検・調査】



【管路の老朽化・地震対策】

BEFORE

AFTER



【ポンプ場の老朽化・地震対策】

BEFORE

AFTER



雨水ポンプ

BEFORE

AFTER



ポンプ場建屋

2 枚方市の下水道事業

⑦ 浸水対策の取組みについて

◆市役所周辺において浸水被害を受けたことから、被害の軽減を図るために新安居川ポンプ場の拡張整備を実施し、令和2年度に完了しました。



平成20年8月 市役所周辺 浸水被害状況



完成した新安居川ポンプ場

◆平成24年8月に枚方市時間最大雨量となる108.5mm/hの集中豪雨を受け、家屋の浸水や道路冠水の被害が多数発生しました。



平成24年8月 楠葉中央交差点 浸水被害状況



完成した貯留管の内部

◆楠葉中央交差点では、過去にも度重なる浸水被害が発生してきたことから雨水貯留施設（内径5,000mm、貯留量2万 m^3 ）の整備を実施し、令和6年2月に完了しました。



貯留管整備に使用したシールドマシン

◆藤阪元町地区において、主要な幹線管渠の整備を令和6年度から着手しています。

2 枚方市の下水道事業

⑧ 下水道事業における計画

